

被造物としての人間

創世記一章26～31節

神は人を自分のかたちに創造された。神のかたちにこれを創造し 男と女に創造された。(27)

聖書はその初めの部分において、神と人間との関係を明確に語ります。キリスト教における救いを理解する上で、この箇所は全ての基礎となります。すなわち、人は神によって創造された存在であるということ です。しかも、神は造られた者たちをご覧になって、「極めて良かった」(31)と言われます。私たち人間を全面的に肯定しておられるのです。人としての健やかさは、自らが神の祝福のうちに創造された被造物であることを自覚して生きることにあります。この神から離れて生きるとき、人は自らの尊厳性をも失います。「あなたは高価で尊い」と告げてくださる神の声に耳を塞いでしまうからです。救いとは、創造主なる神のもとへ帰り、神の被造物として、全面的に神に肯定されていることを認めることです。この新しい年も、神によって肯定された人生を生きようではありませんか。